

令和元年5月31日現在

機関番号：34603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03063

研究課題名(和文) 日本中世・近世都市郊外の歴史的環境形成に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Basic study on historical environment formation in suburbs of medieval and modern cities in Japan

研究代表者

河内 将芳 (KAWAUCHI, Masayoshi)

奈良大学・文学部・教授

研究者番号：40340525

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：八坂神社においては、所蔵史料の調査・写真撮影をおこなうとともに、それらの整理作業と活字化の作業をすすめた。また、清水寺においても、所蔵史料の調査・写真撮影をおこなうとともに、それらの整理作業と活字化の作業をおこなった。その成果の一部として『清水寺成就院日記』第3巻・第4巻を出版社(法蔵館)より刊行することができた。いっぽう、八坂神社・清水寺以外でも八坂神社の御旅所と関係の深かった大和家所蔵の史料の調査・写真撮影をおこなった。さらには、鴨東地域・東山地域において八坂神社と清水寺との中間に位置する建仁寺の所蔵史料の調査・写真撮影をおこなうことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって八坂神社・清水寺所蔵の古文書・古記録および絵画史料の概要が把握できるようになったことは、当該寺社の歴史を解明するための基盤がととのえられたことを意味すると同時に、八坂神社・清水寺が所在する鴨東地域・東山地域の開発とその歴史的過程をあきらかにしていくための基盤がととのえられたことを意味する。そして、それら史料の一部を刊行することができたということは、今後の歴史研究に資するという学術的な意義のみならず、それを手にすることによって一般の人びとにも八坂神社・清水寺の歴史に対する関心を喚起するという社会的意義をもつと考えられる。

研究成果の概要(英文)：At Yasaka-jinja Shrine, he investigated and photographed the historical materials possessed by the shrine, and proceeded to organize and print them. In Kiyomizu-dera Temple, he investigated and photographed historical materials possessed by the temple as well as organized and printed them. As a result, 'Kiyomizu-dera Joju-in Nikki' volume 3 and 4 were published by a publishing company (Hozokan). On the other hand, besides Yasaka-jinja Shrine and Kiyomizu-dera Temple, he also conducted research and photographing of historical materials possessed by the Yamato family which had a close relationship with otobisho (the sacred place where a sacred palanquin is lodged during a festival) of Yasaka-jinja Shrine. Furthermore, he was able to survey and photograph historical materials possessed by Kennin-ji Temple, which is located between Yasaka-jinja Shrine and Kiyomizu-dera Temple in the Outo and Higashiyama regions.

研究分野：日本史

キーワード：八坂神社 祇園社 清水寺 古文書 古記録 絵画 地図

## 1. 研究開始当初の背景

申請者のうち研究代表者は、日本中世・近世の都市のうち、おもに京都をフィールドとして、その都市社会についての研究をおこなってきた。よく知られているように、京都と一口にいても、歴史的には多様な意味合いをもつが、研究代表者がおもに対象としてきたのは、中世、京中（洛中）とよばれた都市の中心市街地とその周辺を示す洛外といった、きわめて限定された地域（いわゆる洛中洛外）であった。これは、中世、とりわけ戦国期の京都の中心市街である京中（洛中、上京と下京）が惣構とよばれる城塞のごとき施設にとり囲まれるという空間的なありかたに起因したものだ。研究代表者は、そのかぎられた都市空間のなかで展開されたさまざまな社会的・文化的事象などについて検討を加え、研究をすすめてきた。そうした研究をつづけていくなかでうきぼりとなってきたのが、中世から近世にかけて、とりわけ豊臣秀吉の時代以降、洛外やそれより外側である郊外における開発とそこへの都市社会の拡大が顕著にみられるということである。とくに鴨川より東側の鴨東地域と東山地域のうち、四条通りから五条通り（現、松原通り）の区間における開発とその変貌は前代とは一線を画するものになっていったということがしだいにかがえるようになった。

ところが、開発がおこなわれ、変貌したという事実自体はうかがうことができても、その実態や歴史的な過程を説明するとなると、それを具体的に裏づけることのできる史料に欠けるといった大きな問題もあきらかとなってきた。じつは、それはこれまでの研究史のうえでも課題として残されてきたものであった。そうしたなか、2013年度～2015年度にかかる科研費・基盤研究（C）「日本中世・近世寺社古記録成立に関する基礎的研究」の調査・研究の一環としてとりくんできた八坂神社（祇園社）所蔵の古文書・古記録の調査の過程で、本研究の研究分担者より、これまで知られてこなかった鴨東地域・東山地域のうち、四条通りの延長線上に所在する八坂神社領について中世から近世にかけて開発状況を知りうる史料（古文書・古記録および絵図などの絵画史料）の存在を教示された。また、同じく鴨東地域・東山地域で五条通り（現、松原通り）の延長線上に中世以来所在する清水寺にも同系統の史料が存在する旨の情報が示されると同時に、それらが未公表・未整理の状況にあるとの情報も得ることになった。

以上のことから、四条通りの延長線上に所在する八坂神社、そして五条通り（現、松原通り）の延長線上に所在する清水寺など、中世以来、鴨東地域・東山地域に所在する神社・寺院が所蔵する古文書・古記録および絵画史料の調査・研究が、研究史をかながみても急務かつ不可欠なことはあきらかといえる状況であった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、日本中世都市の郊外が近世にかけてどのようにして開発され、都市社会のなかに組み込まれていき、そして、近代・現代にまでつながる歴史的環境を形成していったのか、その実態ならびに歴史的過程をあきらかにするため、基礎的な調査ならびに実証的な研究をおこなうものである。

具体的なフィールドとしては、京都の東部郊外、鴨川より東側を示す鴨東地域ならびに東山地域のうち、四条通りから五条通り（現、松原通り）の区間における開発について、この区間に中世以来所在する寺院や神社（八坂神社・清水寺など）所蔵の古文書・古記録および絵画史料の調査・研究をとおして、その実態ならびに歴史的過程をあきらかにするものである。

## 3. 研究の方法

日本中世都市の郊外が近世にかけてどのようにして開発され、都市社会のなかに組み込まれていったのか、その実態ならびに歴史的過程をあきらかにするため、京都の東部郊外、鴨東地域ならびに東山地域に中世以来所在する八坂神社・清水寺などが所蔵する古文書・古記録および絵画史料の調査・研究をおこなった。具体的な調査・検討項目は、次のものである。

- (ア) 八坂神社に所蔵される古文書・古記録の原本調査
- (イ) 八坂神社に所蔵される絵図など絵画史料の原本調査
- (ウ) 清水寺に所蔵される古文書・古記録および絵画史料の原本調査
- (エ) 八坂神社・清水寺以外で同地域に所在する神社・寺院に所蔵される古文書・古記録および絵画史料の原本調査
- (オ) 以上の調査・研究の結果、抽出・整理した史料（古文書・古記録および絵画史料）の横断的・相互的な検討

## 4. 研究成果

### (1) 八坂神社所蔵史料の調査・研究について

八坂神社に所蔵される古文書・古記録および絵画史料の調査・写真撮影・整理作業を研究代表者・研究分担者も所属する八坂神社文書編纂会と協力しつつすすめた。まず、古文書・古記録全般については、すでに重要文化財に指定されているものにつづき、追加の指定を

申請するための基礎的な作業として編年整理と目録作成をおこなった。また、絵図・地図などの絵画史料の調査・写真撮影をおこなった。さらには、明治以降に書きつがれてきた社務日誌の調査・写真撮影をおこなった。

- (2) 八坂神社と直接関係しつつも、社外に所蔵される史料の調査・研究について  
近世の祇園社御旅所と深いかわりをもつ家として大和家がある。そのことは八坂神社所蔵の古文書や古記録から知ることができていたが、そのご子孫が京都錦天満宮の宮司職をつとめられていることがあきらかとなり、大和家の承諾のもと、大和家所蔵の古文書・古記録の調査・写真撮影をおこなうことができた。
- (3) 八坂神社以外の寺社所蔵の史料の調査・研究について その1  
清水寺には近世成就院の役人としてつかえた人びとが書き残した古記録である『成就院日記』が幕末にいたるまで残されている。その翻刻作業と史料集としての刊行作業を研究代表者・研究分担者も所属する清水寺史編纂委員会と協力しつつすすめた。その成果の一部を『清水寺成就院日記』第3巻、第4巻として刊行することができた。
- (4) 八坂神社以外の寺社所蔵の史料の調査・研究について その2  
建仁寺所蔵の古文書・古記録の一部を調査・写真撮影をおこなった。調査期間がかぎられていたため、その全体にまでおよぶことはできなかったが、本研究と関連する古文書・古記録・絵画史料の調査・写真撮影をおこなうことができた。
- (5) おのおのの寺社所蔵史料の調査・研究をなお継続していく必要性が確認できたため、慎重を期せば、全体的な見通しに言及できる段階とはいいがたいが、ただ、そのようななかでも、おのおのの寺社所蔵史料に残される諸事実からは、各地域の開発が個別におこなわれたものではなく、互いに連関してすすめられたという展望を見いだすことはできた。

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計4件)

- 下坂 守、近世祇園御旅所考、奈良史学、査読有、36、2019、1~30  
下坂 守、神宝「勅板」と祇園会、藝能史研究、査読有、217、2017、1~22  
河内将芳、室町期祇園会における船と定鉾について、藝能史研究、査読有、217、2017、20~31  
河内将芳、中世の山口祇園会と京都祇園会、九州史学、査読有、174、2016、34~50

### 〔学会発表〕(計3件)

- 河内将芳、東山大仏と豊臣政権期の京都、第30回平安京・京都研究集会、2017  
下坂 守、神宝「勅板」と大政所の「とひくはり」、第53回藝能史研究会大会、2016  
河内将芳、室町期祇園会のイメージについて、第53回藝能史研究会大会、2016

### 〔図書〕(計3件)

- 下坂 守、河内将芳他、法蔵館、清水寺成就院日記第4巻、2019、408  
下坂 守、河内将芳他、法蔵館、清水寺成就院日記第3巻、2018、386  
河内将芳、吉川弘文館、落日の豊臣政権、2016、198

### 〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：

権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：下坂 守  
ローマ字氏名：SHIMOSAKA Mamoru  
所属研究機関名：奈良大学  
部局名：その他部局等  
職名：特別研究員  
研究者番号（8桁）：10150038

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：中村文音  
ローマ字氏名：NAKAMURA Ayane

研究協力者氏名：吉竹智加  
ローマ字氏名：YOSHITAKE Chika

研究協力者氏名：真下卓也  
ローマ字氏名：MASHIMO Takuya

研究協力者氏名：辻野 満  
ローマ字氏名：TUJINO Mitsuru

研究協力者氏名：東條果穂  
ローマ字氏名：TOJYO Kaho

研究協力者氏名：新谷香菜  
ローマ字氏名：NITANI Kana

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。